

授業デザイン FIRST STEP Vol.4 —小学校図画工作科「手立て」編—



1 活動中に教師がすべきこと

活動中は、児童の様子に気を配りましょう。じっと考えているような児童の様子が見られた場合、思考しているのか行き詰っているのかを捉えることが重要です。行き詰っている場合は、児童の活動が進展するように、個別に手立てを講じましょう。



2 児童の活動が進展するための手立て

(1) 発想や構想をすることができるようにするために

材料や用具に触れることができる場や時間を設定し、児童が試しながら発想や構想をすることができるようにしましょう。「材料に触って組み合わせてみたら、思い付いたよ。」と、児童が感じるようにすることが大切です。また、友達がしていることを見るように促したり、教師が対話をしたりすることも発想や構想をするヒントとなります。



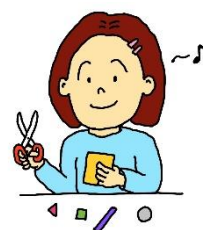
(2) 自分の思いを表現することができるようにするために

図画工作科では、作品の上手下手ではなく自分の思いを工夫して表現することが大切であることを伝えましょう。「自分が思ったように表現していいんだ。」と、児童が安心感をもつようにすることが大切です。そして、児童が表現したもののよさや面白さを教師が見付け、「面白いね。」や「すてきだね。」というように、共感的な声掛けをしましょう。



(3) つくりだす喜びを感じることをできるようにするために

試したり練習したりできる材料や用具を準備し、その場や時間を設定することで、児童の苦手意識や不安を和らげましょう。「失敗しても大丈夫。」と、児童が感じるようにすることが大切です。それでも活動に取り組むことができない場合は、教師と一緒に活動して、児童が面白いと感じることができるものを探ってみましょう。



3 その他の手立て

(1) 児童が時間いっぱい活動に取り組むための手立て

「めあては達成できているかな。」と声掛けをし、児童が自分の活動を振り返ることができるようにしましょう。児童の意図を引き出す発問をしながら、よりよい表現の工夫を考えるように促し、活動時間を有効に使うことができるようにしましょう。

(2) 児童が納得して表現活動を終わるための手立て

「これだけは表したいと思うことは何かな。」と声掛けをし、児童が表したいことの優先順位を決めるように促しましょう。その上で、残りの時間に対して納得する終わり方を考え、見通しをもって活動に取り組むことができるようにしましょう。授業の中で児童自身が納得して終わることが大切です。